

平成13年度大学情報化職員研修会

開催要項

A日程 平成13年10月10日(水)～12日(金)

B日程 平成13年10月17日(水)～19日(金)

社団法人私立大学情報教育協会
研修運営委員会

平成13年度・私情協研修等事業一覧	
7月	大学情報化職員基礎講習会
8月	学内LAN運用管理講習会
8月	授業情報技術講習会
9月	情報センタ等部門研修会
10月	大学情報化職員研修会
11月	事務部門管理者会議

・研修目的・テーマ

この研修会は、情報技術を活用して教育研究に関する情報、管理運営に関する情報を職員がそれぞれの立場で活用し、大学本来の使命である人材育成に役立てられるよう、職員の情報活用能力の向上を図ることを目的として、昨年までの「事務システム研修会」を改組し新たな研修会として開催するものです。研修は、業務及びテーマごとにグループを設定し、情報化のための環境作り、運用・効果、体制等に関する問題全般について、グループ内の参加者相互によるシステムの事例紹介、討議を通して理解を深めます。

研修会テーマ 「大学の情報（ＩＴ）化における職員の果たすべき役割」

・研修内容

学内の基幹業務あるいは業務を横断するテーマについて討議と事例研究を行い、問題解決の方法について理解する。また、必要に応じて専門家・経験者を招いて講演を聴き質疑応答・意見交換等を行います。

１．Ａ日程（６グループ） １０月１０日（水）～１２日（金）

グループ	グループテーマ
A - １	学園の戦略的情報化
A - ２	学園統合情報システムの構築・運用
A - ３	イントラネットと文書管理
A - ４	学術情報システム
A - ５	経理・財務情報の戦略的活用
A - ６	ホームページを利用した戦略広報

２．Ｂ日程（６グループ） １０月１７日（水）～１９（金）

グループ	グループテーマ
B - １	入試・入学業務の情報化
B - ２	学生の個人情報管理（卒業生・校友会管理を含む）
B - ３	カリキュラム・時間割管理とシラバスデータベース
B - ４	履修登録と成績管理業務
B - ５	各種資格取得支援
B - ６	就職支援システムの構築と運用

3. 全体講演、事例発表とデモンストレーション

大学における情報環境整備が進められる中で、職員には情報化の意義を理解し、自らの業務を見直し、それぞれの立場で教育支援を遂行することが求められます。そこで、今回の研修会では、大学の情報（IT）化を進める上で職員が意識すべき事項、果たすべき役割、求められる資質などについて全体会にて講演・解説します。また、必要に応じて、関連するテーマの事例紹介、最新技術に関する賛助会員企業のデモンストレーション、ハードウェア、ソフトウェアの展示・解説を行います。

・研修方法、研修期間

各日程とも、2泊3日の合宿研修です。

A日程：平成13年10月10日（水）～12日（金）

B日程：平成13年10月17日（水）～19日（金）

・参加資格

加盟大学職員： 当協会加盟大学・短期大学の職員で、大学業務の情報化に携わる方。グループのテーマに関心がある方で、積極的に意見交換できる方。

賛助会員： 本研修会の開催内容に関連する当協会賛助会員企業の方で、討議に積極的に参加の上、関連情報の提供などにより参加グループの討議促進に貢献できる方。

・参加者レポート

参加者は、参加するグループのテーマについてレポートを提出の上、グループ内で交換し、事前に討議・発言の内容を研究することとします。

レポートの作成方法については「レポート作成要項」をご参照ください。

・募集定員

各グループとも、定員を30名程度とします。

・参加費（宿泊費は含みません。）

1人 26,500円

・開催会場および宿泊

< 会 場 > 『グランドホテル浜松』

< 所 在 地 > 静岡県浜松市東伊場 1 - 3 - 1 TEL:053-452-2111

< 交通機関 > 東海道新幹線「浜松駅」下車。浜松駅より送迎バスを用意いたします。バス発車時刻、集合場所等については、後日、参加者確定通知に含めて連絡いたします。

< 宿 泊 費 > 1人 26,000円

本講習会は合宿研修のため、参加者は全員グランドホテル浜松に宿泊していただきます。（部屋割りは当方で決めさせていただきます。なお、部屋割りは原則として大学毎、参加グループ毎の2名以上の相部屋としますのでご了承下さい。）

宿泊費は、開催日第1日目受付時に、参加者個人別にホテルへお支払い頂きます。

・参加申し込み方法および締切期日

以下2点を大学ごとに一括とりまとめて同封し、8月24日（金）までに私情協事務局まで郵送にてお送り下さい。 締切日以降でも定員に余裕があれば申込を受け付けますので、事務局にお問合せください。

1. 参加申込書 ・・・・貴学の参加者全員についてとりまとめの上、作成してください（各大学で1通作成）。

参加される方々全員の名前、役職、参加を希望されるグループ等、所定事項をもれなく記入してください。開催要項に添付の参加申込書に記入いただくか、あるいは、私情協Webページに掲載のMS-EXCELワークシートをダウンロードして作成願います。

（<http://www.shijokyo.or.jp/LINK/news/SYSTEM/13system.htm>）

MS-EXCELにて作成の場合には、ワークシートファイル、印字出力したワークシートの両方を同封してください。ワークシートファイルは「2.参加者レポート」と同じフロッピーディスクに納めて下さい。

2. 参加者レポート ・・・・各々の参加者全員が作成し（各大学参加人数分作成）

「XII.参加者レポート作成要領」により各参加者が作成の上、参加者全員分の参加者レポートを納めたフロッピーディスク、および印字出力した文書を同封してください。

募集締め切り後、事務連絡担当者宛に参加者確定等についてご案内いたします。（8月31日頃になります）

< 申込先 > 〒102-0073 東京都千代田区九段北 4 - 1 - 14 №1 山崎ビル 4F
社団法人私立大学情報教育協会 事務局
TEL:03-3261-2798 FAX:03-3261-5473

．参加費納入方法

参加費は、参加者確定後、大学ごとに一括して10月1日（月）までに銀行振込によりご納入ください。

< 振込先 > あさひ銀行 市ヶ谷支店 普通預金
口座番号：54409 名義人：（社）私情協

．研修会報告書

本研修会終了後、報告書を刊行し参加者全員に送付いたします。

．参加者レポート作成要領

『 各グループの討議概要』に記載された参加者レポートの記載項目を参照の上、以下の形式で作成してください。

レポートは事前に同グループの参加者に配布され、討議の参考資料といたします。

サイズA4 1枚以内

参加グループ名

A - 1 学園の戦略的情報化

千代田大学
学務課入試係
九段 一郎
kudan@chiyoda.ac.jp

大学名、所属名、氏名
メールアドレス（持っている方のみ）

1．研修参加の目的
今回の研修は・・・

2．自校の現状点ならびに今後の・・・
本学では・・・

3．情報交換希望項目
・AO入試の・・・
・手続き書類の・・・

討議概要を読んで指定
内容を記載してください

The diagram shows a rectangular box representing a report template. Inside, there are three dashed-line boxes. The top-left dashed box contains the text 'A - 1 学園の戦略的情報化'. The top-right dashed box contains the text '千代田大学 学務課入試係 九段 一郎 kudan@chiyoda.ac.jp'. The bottom dashed box contains a numbered list: '1. 研修参加の目的 今回の研修は...', '2. 自校の現状点ならびに今後の... 本学では...', and '3. 情報交換希望項目' followed by bullet points '・AO入試の...' and '・手続き書類の...'. Arrows point from external labels to these boxes: '参加グループ名' points to the top-left box; '大学名、所属名、氏名 メールアドレス（持っている方のみ）' points to the top-right box; and '討議概要を読んで指定内容を記載してください' points to the bottom box. The text 'サイズA4 1枚以内' is located to the left of the main box.

レポートの提出は、参加者全員分の文書ファイル(MS-WORD 等)を納めたフロッピーディスク、および印字出力した文書を同封してください。文書ファイルは大学毎に1枚のディスクにまとめ、参加者名をファイル名にしてください。

例 kudan.doc

・各グループの討議概要について

テーマ・内容は参加者の討議希望内容によって若干の変更を行うことがあります。

A - 1 学園の戦略的情報化

1. グループ討議のメインテーマ

「戦略的大学経営にはどのような情報化が必要か」 - 情報コーディネータ -

2. グループ討議の内容・形態

情報技術の活用により、大学の教育は、教育内容をはじめ、教育方法、学習方法、単位の取得などにおいて新しい展開が始まりつつある。これを実践して行くには、教育の基盤環境、支援体制の整備などについて、大学としての基本理念を明確にした上で、教員、職員がそれぞれ目標を設定し行動することが要請されてくる。

本コースでは、全く新しい大学を創造することを仮定し、問題点・課題の整理と解決方法の発見、施策の検討などについて、参加者が自大学の組織・人事制度などを越えて、仮想大学におけるトップマネジメントのメンバーとして討議することになっている。

<キーワード>

- ・ 戦略的大学経営に必要な情報とは何か（どのように情報を活用すべきか）
- ・ 情報コーディネータに求められる能力とは何か（問題発見企画型人材と組織）
- ・ 情報化推進は自立主義か産学共同体か（アウトソーシングの問題）
- ・ 研究・教育と事務の区分けは必要か（教員と事務職員の問題）
- ・ 大学にキャンパスは必要か（ITを駆使して在宅学習や勤務は可能か）
- ・ 採用計画や処遇はどうあるべきか（新卒者と社会人採用の問題と処遇問題）

3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

必要に応じて参加者レポートの中からミニ事例発表をお願いすることがある。

4. 参加者レポート

参加者は、自校の戦略的情報化における経験、あるいは情報化推進に関する組織、人材育成の問題点や評価できる点をまとめたレポート(A4 一枚程度)の事前提出を参加の必須要件とする。

A - 2 学園統合情報システムの構築・運用

1. グループ討議でのメインテーマ

「統合システムとは？」

2. グループ討議内容・形態

これまでの業務システムは、業務の合理化、大量処理に主眼が置かれ、処理効率向上のための様々な取り組みが行われてきたが、今後は、それぞれの部門で蓄積される教育、研究、管理運営にわたる情報を部門間で共有し、相互に活用するための環境整備が重要な課題となる。

そこで、本コースでは、学内の情報共有と相互利用のあり方について討議し、実現

のための学園統合システムの要件、構築に際しての留意点などについて理解を深め、今後の方向性を模索することになっている。

<サブテーマ>

- ・ 統合化とは何か
- ・ 情報の共有化が目指すもの
- ・ データベース構築
- ・ E U C についての諸問題
- ・ 情報開示とセキュリティー

3．事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者の事前レポートの内容をもとに、各大学の状況報告をお願いする。

4．参加者レポート

このグループへの参加の動機、自校のシステムの構築・運用状況、このテーマに関する情報交換希望項目についてまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

A - 3 イン트라ネットと文書管理

1．グループ討議でのメインテーマ

「情報の共有とIT化」

2．グループ討議内容・形態

教育内容の改革、経営・運営体制の再構築など、大学が諸改革を進める際には、教職員が必要とする情報が居ながらにして収集・加工することができるような情報システムを通じて、共通の意識・理解のもとに、それぞれの立場で情報を活用することが求められる。

本コースでは、学内イントラネットによる文書管理に焦点を当て、会議通知や各種連絡・案内などのペーパーレス化と連絡確認等の省力化、企画資料や議事録の印刷・配布等の効率化のポイント、グループウェア、電子掲示板などの支援技術の活用方法について、事例を踏まえつつ意見交換を行い、文書管理の今後のあり方、理想的な情報共有の姿を模索することになっている。

<サブテーマ>

- ・ イン트라ネットの概要と構築
- ・ グループウェア（電子メール、電子掲示板、スケジュール管理）
- ・ ペーパーレス実現への課題（電子帳票と共有フォルダーの利用）

3．事例発表、ミニ事例発表の有無

原則として参加者全員がミニ事例発表を行う。

4．参加者レポート

ミニ事例発表、自大学で実践または計画しているイントラネットを使った業務の効率化事例を発表出来るようにまとめたレジュメの事前提出を参加の必須要件とする。

A - 4 学術情報システム

1. グループ討議のメインテーマ

「IT化の進展における学術情報サービス」

2. グループ討議の内容・形態

これまでの図書館における情報化は、図書の貸出管理など業務の機械化を中心に進められてきたが、これからの図書館には、例えば、外部のデータベースや電子ジャーナルにより教員・学生にネットワークで図書を提供などの工夫をはじめ、教材や学術情報の電子化・アーカイブ化など、積極的な教育研究支援が要求されている。

本コースでは、情報技術の進展に対応した新しい図書館の創造に向けて、教育研究支援とそれを支える情報システム、組織と運営のあり方などについて、参加校の事例を踏まえながら討議を行うことにしている。

<サブテーマ>

・ 教育研究支援業務

授業に読書を取り込むための支援、イントラネットによる読書啓発、教材の電子化支援、電子ジャーナル、ホームページ活用、利用者の情報環境整備、教材等の共同利用・共同購入によるディスカウント

・ 教育研究支援システム

OPAC、Z 3 9.5 0、多言語対応、教材・学術データベース、シラバスデータベース、N I I との連携、電子図書館（e-book、e-brary）

・ 組織と運営

組織の統廃合、アウトソーシング、図書館員の情報リテラシー、専門性の育成、利用者教育、コンソーシアム

3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

- 1) 参加者事前レポートの内容から、数例のミニ事例発表をお願いする。
- 2) 参加校の現況報告とテーマについての意見交換を行う。
- 3) 図書館等のホームページのコピー、利用案内等を5部持参。

4. 参加者レポートの形式

このグループへの参加の動機、自校の学術情報システムの構築・運用状況、情報交換希望項目について、A 4 サイズ 1 ページのレポートを事前提出すること。

A - 5 経理・財務情報の戦略的活用

1. グループ討議のメインテーマ

「経理・財務情報の共有化と経営情報への活用」

2. グループ討議の内容・形態

これからの大学経営には、広範な情報の収集、多面的な情報の分析、迅速な意思決定が求められる。それを実現するためには、これまでの経理・財務情報のあり方に

について見直しを行い、教育研究活動の実状が把握できるような情報の共有化・統合化を実現する情報システムが必要となる。また、情報公開の立場からも、社会に対して経理・財務情報をわかり易い形で開示していくことが求められている。

本コースでは、経理・財務情報の共有化と経営情報への活用手法、経理・財務情報システムのあり方、情報を開示する際の指針などについて討議し、取り組むべき方向と方策を模索することになっている。

< サブテーマ >

- ・ 情報の共有化・統合化とその手法（教育研究情報と経理・財務情報の連携）
- ・ 情報の戦略的な活用（利用するための視点）
- ・ 情報公開（開示）とセキュリティ

3．事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者事前レポートの内容により、数件のミニ事例発表をお願いするとともに、各大学の状況報告をお願いし、これらを参考にしながら討議を行いたい。

4．参加者レポートの形式

参加の動機、自校のシステム構築・運用状況、情報化に対する考え方、問題点、討議希望事項について、事前提出することを参加の条件とする。

A - 6 ホームページを利用した戦略広報

1．グループ討議のメインテーマ

「ホームページ広報再考」

2．グループ討議内容・形態

その形態、規模はともあれ、ほとんどの私立大学が広報の一手段としてホームページを活用し、情報技術の進展に伴い多種多様なプレゼンテーションが行われている。

ところで、広報活動の一環としてのITの活用は十分な機能を果たしているのだろうか。大学の教育・研究のアイデンティティ（独自性）が国内外から理解を得られるよう機能しているだろうか。

本コースでは、大学のアイデンティティを表現するための各種広報媒体（印刷媒体、電波媒体、サイバースペース媒体など）の効果と限界、高等教育機関としてのホームページ（優れた授業、研究内容の紹介）のあり方、社会人を含めた学生確保のためのITの活用（広報・宣伝活動の範囲）などについて、大学間での情報交換を通して多角的に討議を行いたい。そして競争が激化する中で、広報関連業務に携わる職員としての意識と役割、そしてホームページ広報のより積極的で有効な活用方法を再考する機会としたい。

< サブテーマ >

- ・ 大学のアイデンティティの確認と電子化の可能性
- ・ ITを活用した広報戦略
- ・ ホームページ広報の特殊性（効果と限界）
- ・ 企画、作成、運営体制
- ・ アウトソーシングの可能性と限界（ホームページ作成からホスティングサービスまで）

- ・ セキュリティ（必要性和デメリット）
 - ・ Web開発の技術基盤（インタラクティブWeb、e-Business）
- 3．事例発表、ミニ事例発表の有無
サブテーマについて参加者事前レポートの内容により、数件の事例発表等をお願いする。
- 4．参加者レポート
以下の項目について自校の状況をA4サイズ1枚にまとめ、事前提出を参加の必須要件とする。
- ホームページアドレス
 - ホームページの特色（ポリシー、ねらい、i-mode対応等技術的な特徴、その他）
 - このテーマに関する情報交換希望項目

B - 1 入試・入学業務の情報化

- 1．グループ討議のメインテーマ
「入試・入学業務の情報化」
- 2．グループ討議の内容・形態
18才人口の減少が進む中、多くの私立大学では、入学者選抜方法の複線化、多様化など、受験者（入学者）確保のため様々な対策が検討されている。多様な入学者選抜制度の導入によって、業務はより高度化・複雑化し、環境面・体制面の整備が必要となるが、一方では、受験者減少に伴う収入減により、経費節減・業務の合理化が求められており、入試・入学の業務は、戦略性と合理性の両面から対応する必要に迫られている。
- 本コースでは、各大学における入試制度の多様化への対応や、現状の入学業務システムが抱える問題点等を参加者より披瀝いただき、上記の問題を解決する一つの手段としてのITの可能性と限界について、討議を通じて問題解決の手法を模索していくことにしている。
- <サブテーマ>
- ・ 入学者選抜制度（多様な入試制度とIT活用の必要性）
学生募集から入学処理までのIT活用、AO入試、社会人入試などへのITの活用
 - ・ 入試・入学データの活用
入試データの戦略的な活用（志願者動向の的確な把握、入学時-卒業時の成績比較による入試制度の検討など）、情報開示、セキュリティー対策
- 3．ミニ事例発表
参加者事前レポートの内容から、3～4のミニ事例発表をお願いする予定である。積極的に引き受けいただきたい。
- 4．参加者レポートの形式
グループ討議の円滑運営のため、下記事項を項目別にレポート（A4版1ページ以内）として事前に提出していただく。

「研修参加の目的」
上記サブテーマのキーワードについて「自校の現状と問題点」および「今後の計画と情報システムに望むもの」
「情報交換希望項目」

B - 2 学生の個人情報管理（卒業生・校友会管理を含む）

1. グループ討議のメインテーマ

「学生サービスとしての個人情報管理（卒業生サービスを含む）」

2. グループ討議の内容・形態

学生情報の管理は、これまでは主に在学中の学生を対象とした情報管理であったが、イントラネット等の進歩により、学内の多くの部門で学生個人情報を利用する傾向が増えている。こうした状況の中で、在学中から卒業後にいたる一貫した情報として学生の動向を把握するため、ITを活用して情報の統合化と共有化を図り、教育支援業務全体の効率化と活性化を進めることが望まれている。

本コースでは、卒業生の情報を含む学生個人情報の管理を中心に、学内他部門と連携した情報の利用形態と、利用範囲、プライバシーの保護やセキュリティの問題を含め意見交換を行い、望ましい情報共有、情報管理のあり方について模索することとする。

<サブテーマ>

- ・ 学生の個人情報の範囲と内容
- ・ 学籍情報と卒業生、校友情報の共有化（個人情報のDB化など）、プライバシー
- ・ 学籍管理情報と他システムとの連携と活用
- ・ ITによる学生個人情報の戦略的活用（大学支援の手段として）
- ・ 情報のセキュリティ対策

3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

各大学における情報共有のためのシステム構築、運用管理の現状について、ミニ事例発表をお願いし、これらを参考にしてグループ討議を行いたい。

参加者の事前レポートの内容をもとに、各大学の状況報告をお願いする。

4. 参加者レポートの形式

このグループへの参加動機

自校のシステム（特に学籍管理または、校友管理と連携した業務）の構築・運用状況
今回のテーマに関する情報交換希望項目について、所定用紙のレポートの事前提出を参加の必須条件とする。

B - 3 カリキュラム・時間割管理とシラバスデータベース

1. グループ討議のメインテーマ

「シラバスデータベースとITを活用した学生支援」

2. グループ討議の内容・形態

学生の履修登録に先立ち、学生の主体的な授業参加を可能にするため、詳細な授業計画・授業情報を常に学生に提供するシラバスデータベースの整備と充実が急務である。また、シラバス情報の提供に加えて、履修科目と各種資格取得要件や卒業要件への適切なアドバイス、就職に向けた関連科目の履修指導など、学生が目的意識を持って授業に臨むことができるよう学生個人向けの対応が求められている。

本コースでは、教職員一体となった教育支援体制を構築するためのITの活用手法について、とりわけ、シラバスデータベース・時間割のあり方をとり上げ、インターネットでの情報開示、その基盤情報となるカリキュラム・時間割作成等の問題点と改善策について討論することになっている。

< 討議項目 >

シラバスデータベースの理想形

- ・ 学生ニーズ多様化への対応（学生満足度の向上に向けて）
 - ・ 学生活動支援（自主的なキャンパスライフ設計、長期時間割作成）
 - ・ 履修登録とシラバスデータベース検索システム
 - ・ 授業評価の反映、学生とのコミュニケーション
- 教学事務の改善（カリキュラム・時間割・シラバス作成を中心に）
- ・ 学内情報、資産、施設、の有効活用、コスト軽減への効率的活用
 - ・ 大学事務組織と教職員の意識改革の必要性

< サブテーマ >

- ・ インターネットとシラバスデータベース
- ・ 履修登録システムとシラバスデータベース
- ・ カリキュラム・時間割編成とシラバスデータベース
- ・ 教学事務のOA化、情報共有による教育支援
- ・ シラバス内容の学部・学科での認証

3. 事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者事前レポートの内容から、2～3のミニ事例発表をお願いする予定。

4. 参加者レポートの形式

上記のサブテーマに沿った自校の現状と問題点、討議希望事項をA4サイズ1枚以内にまとめて事前提出することを参加の必須条件とする。

B - 4 履修登録と成績管理業務

1. メインテーマ

「情報の多様化に対応した戦略的な履修登録と成績管理」

2. グループ討議の内容・形態

これまで、履修登録と成績管理業務の情報化は、定形的な事務作業の機械化、省力化に主眼がおかれていたが、「学生の主体的学習意欲とその成果の積極的評価」が大学審議会答申で指摘されているように、電子化された情報は学生の学習意欲への動機付けのために、また、カリキュラム改革、授業評価など、教育活動全般の改善

のために積極的に活用されなければならない。

本グループでは、能力別クラス、コース制など科目編成と学生ニーズの多様化に対して、履修・成績管理の視点から課題・問題点を整理し、情報技術の活用による解決策を模索することになっている。

< サブテーマ >

- ・ 履修・成績管理業務の高度情報化（イントラネットによる履修相談など）
- ・ 授業評価情報を踏まえたカリキュラム、教育方法改善への支援
- ・ イントラネットを介した教育と教務職員の意見交流（能力別クラス、インターンシップ、自学自習などにおける課題）

3．事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者事前レポートから、参考となるいくつかの事例を発表していただく予定。

4．参加者レポートの形式

次の項目について事前にまとめ提出すること。

教務事務部門での業務経験年数

自学におけるIT(情報統合や新メディア)の活用状況

現在の課題と討議希望事項

B - 5 各種資格取得支援

1．グループ討議のメインテーマ

「生涯学習・資格取得支援のための課外講座運営システム」

2．グループ討議の内容・形態

開かれた大学への社会的要請の高まりの中で、生涯学習への対応として、多くの大学で課外講座が開講されている。また、大学によっては、高度職業人養成を目的として、正課授業と連携して各種資格試験を取得するための対策講座を開講している。学びたい人に学ぶ場を提供することが大学の使命であるならば、大学は時間・距離など物理的な制約を越えて対応することが本来の姿であろう。

そこで、これらの問題解決のための一方策として、新しいe-ラーニングを中心とする学びの場を構築することが不可欠であり、経営的な面からも不特定多数の学生からの収入を得ることができる点で、経営改善に大きな可能性をもたらすことが考えられる。

本コースでは、多様な学習形態に応える教育システムの未来像について、討議を通して理想像を模索することになっている。

< キーワード >

- ・ エクステンションセンター
- ・ e-ラーニング、WBT
- ・ 教育コンテンツのネットワーク配信
- ・ 正課・課外連携システム
- ・ 生涯学習システム

3．事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者全員に各大学における課外講座の開講状況とそれを支えるシステムの整備状況についてミニ事例発表をお願いし、これらと先進事例を参考にしながら討議を進めたい。

4．参加者レポート

参加動機、自学の課外講座開講状況、システム構築・運用状況、このテーマに関する情報交換希望項目について、A4サイズ1ページのレポートの事前提出を参加条件とする。

B - 6 就職支援システムの構築と運用

1．グループ討議のメインテーマ

「インターネット時代の就職支援と情報化」

2．グループ討議の内容・形態

大学の就職業務は、学生の気質とともに大きく変容しつつある。就職と人生の生き方に対して、大学は真剣に考えるところに来ている。それは何のために就職するのか、社会に出てどのような仕事に就業し、人生を謳歌したいのか、学生には理解されていないことが多い。就職のリクルート情報については、市販を含め収集が便宜的になっている状況を考慮すると、大学自身が関わるということの意義が希薄化している。大学で行う就職支援とは、学生が大学で学んだことを社会にどのように還元できるのか、その視点から、その能力を発揮できる場を相談助言することが重要で、SPS (Student Personal Service)の面からもあらためて見直す必要があろう。

本コースでは、このような観点から、学生のための真の就職支援とは何かを考え、例えばインターンシップなど、授業と連動した就職支援を通じた職業の適切性などを体得させるような業務を模索する必要があり、教務、学生部と連携した業務のあり方について、新しい就職支援のあり方を討議することになっている。

<サブテーマ>

- ・ 就職支援情報システムに求められる機能と役割
 - インターネット就職情報の活用
 - イントラネット就職支援情報の構築（企業等情報と学生個人情報等）
 - インターンシップなどの人材育成プログラムのあり方と情報化
- ・ 教務、学生部、就職部の連携と情報化
- ・ 就職支援情報システムの高度情報化策・統合化
 - 分散管理と集中管理、データベースの構築、EUC、データウェアハウス、情報開示、セキュリティ

3．事例発表、ミニ事例発表の有無

参加者全員に、各大学における就職情報化の現状と課題についてレポートを提出して頂き、先進的事例については発表をお願いする。

4．参加者レポートの形式

以下の項目レポート（A4サイズ1ページ）の事前提出を参加条件とする。

参加大学のデータを討議の参考資料とするため、アンケート調査を行う。
(アンケート内容)

- ・ 参加者の現職勤務年数
- ・ 就職担当部署の職員数
- ・ 1 学年の学生定員概数 (就職担当者 1 人当たりの学生数を出すため)
- ・ E-Mail を使用できる学生の割合
- ・ 就職部主催の支援講座の実施内容
(資格取得、筆記試験対策 etc . (外注の有無))
- ・ 他部署主催の支援講座の実施内容 (同上)
- ・ インターンシップの実施状況
- ・ 就職情報専用 H P の有無

稼動システムならびに新システム計画の紹介

システム上の課題と討議希望項目 このグループへの参加の動機、自校のシステムの構築・運用状況、このテーマに関する情報交換希望項目についてまとめたレポートの事前提出を参加の必須要件とする。

. 研修会日程

	1 日目	2 日目	3 日目
7:00		朝 食	朝 食
9:00		グループ討議	グループ討議
		Coffee Break	Coffee Break
10:30		グループ討議	グループ討議 アンケート記入後解散
12:00	受 付	昼 食	
13:00	開会式		
13:30	全体講演	グループ討議	
		Coffee Break	
15:30	グループ討議	グループ討議	
17:00	チェックイン 休 憩	休 憩	
18:00	懇親会	夕 食	
19:00	フリーディスカッション	(最新技術解説・展示)	

プログラムは場合により変更することがありますので、あらかじめご了承ください。